

第 2 回医療・病床懇話会の概要(泉州二次医療圏)

1 将来のあるべき姿の到達度を測定する指標(案)・病床機能分化の方向性等について

- 将来のあるべき姿の到達度を測定する指標として、「将来にむけて回復期への転換が必要な病床」を設定し、今後、地域医療構想の進捗状況をモニタリングしていくことについて、認識の共有を図った。
- 増加する医療需要に対応するためには、許可病床数を最大限活用することが必要。

【高度急性期・急性期に関する意見】

- 高度急性期・急性期病床数は他の圏域に比べて少なく、病床稼働率は極めて高いため、急性期から回復期への病床転換については、慎重に検討すべきである。
- 泉州では、高度急性期と急性期患者の堺市や和歌山県等の圏域外への流出が非常に多く、また、災害時に交通が遮断されることを考えると、圏域内の高度急性期・急性期の偏在をなくす方向で考えるべき。
- 慢性期から回復期への転換を促し、急性期の減少については慎重にすべきである。

【慢性期に関する意見】

- 慢性期の一部が介護医療院へ、また一部が回復期へ転換することで、慢性期の割合は減ると考えられる。
- 慢性期から回復期への転換は現実的ではなく、もう少し時間に余裕を持つべき。また、補助金に加え、何らかのサポートが必要。
- 昨今は、回復期機能をもった慢性期医療が推進されており、慢性期から回復期への転換は非現実的ではない。

2 病院の将来プラン等※について

(1) 保健医療協議会においてプラン等の内容について説明を希望する病院

特になし

(2) その他、病院のプラン等に対する意見・質問等

特になし

※公的医療機関等 2025 プラン、新公立病院改革プランにかかる補足調査、将来に向けた病院のプランに関する調査